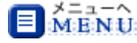




長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

[Login User](#) 松尾 成則 『全学教育』

タイムアウトまでおよそ1793秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_全学モジュール I-16. 安全で安心できる社会**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	木1																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20120586014102	科目番号	05860141																														
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (リスク社会と社会科学)																																
編集担当教員	森保 洋																																
授業担当教員名(科目責任者)	森保 洋																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森保 洋																																
科目分類	全学モジュール I 科目																																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																														
教室	[全]新棟5																																
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部																																
担当教員Eメールアドレス	moriyasu@nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所313号室																																
担当教員TEL																																	
担当教員オフィスアワー	木曜日正午から13時まで。これ以外の時間帯についてはemailでアポイントを取ること。																																
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における金融市場の重要性を理解すること</li> <li>・金融市場の基本的な要素を理解し、そこで生じるリスクとそれをコントロールするための基礎的概念を理解すること</li> <li>・金融リスクを評価する上で必要となる確率論の基礎を理解すること</li> </ul>																																
授業方法(学習指導法)	基本的には講義形式をとるが、確率論の学習等の際に演習を行う予定である。																																
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な金融商品の特性を理解する。</li> <li>・金融商品の取引で生じるリスクとその評価手法を理解する。</li> <li>・金融リスクをコントロールするための基本的なモデルを理解する。</li> </ul>																																
授業内容	<p>まず、現代社会における金融市場の役割と、それが内包するリスクの種類について概観する。次に基本的な金融商品の特性と、それら商品のリスク評価の方法とリスクを低減させる基本的手法を学習する。リスク評価には確率に関する理解が必須であるため、授業では確率論の基礎についても触れる予定である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td></tr> <tr><td>2</td><td>基本的な金融商品と金融リスクの種類</td></tr> <tr><td>3</td><td>債券市場(1)</td></tr> <tr><td>4</td><td>債券市場(2)</td></tr> <tr><td>5</td><td>株式市場(1)</td></tr> <tr><td>6</td><td>株式市場(2)</td></tr> <tr><td>7</td><td>リスク評価と確率論(1)</td></tr> <tr><td>8</td><td>リスク評価と確率論(2)</td></tr> <tr><td>9</td><td>リスク評価と確率論(3)</td></tr> <tr><td>10</td><td>中間試験</td></tr> <tr><td>11</td><td>ポートフォリオ理論(1)</td></tr> <tr><td>12</td><td>ポートフォリオ理論(2)</td></tr> <tr><td>13</td><td>ポートフォリオ理論(3)</td></tr> <tr><td>14</td><td>信用リスクとその評価(1)</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	イントロダクション	2	基本的な金融商品と金融リスクの種類	3	債券市場(1)	4	債券市場(2)	5	株式市場(1)	6	株式市場(2)	7	リスク評価と確率論(1)	8	リスク評価と確率論(2)	9	リスク評価と確率論(3)	10	中間試験	11	ポートフォリオ理論(1)	12	ポートフォリオ理論(2)	13	ポートフォリオ理論(3)	14	信用リスクとその評価(1)
回	内容																																
1	イントロダクション																																
2	基本的な金融商品と金融リスクの種類																																
3	債券市場(1)																																
4	債券市場(2)																																
5	株式市場(1)																																
6	株式市場(2)																																
7	リスク評価と確率論(1)																																
8	リスク評価と確率論(2)																																
9	リスク評価と確率論(3)																																
10	中間試験																																
11	ポートフォリオ理論(1)																																
12	ポートフォリオ理論(2)																																
13	ポートフォリオ理論(3)																																
14	信用リスクとその評価(1)																																

	15 信用リスクとその評価(2)
	16 授業の総括
キーワード	証券市場、金融リスク管理、金融工学、確率論、統計学
教科書・教材・参考書	教科書: 特に指定しない。教員が適宜教材を準備する。 参考書: 榊原ほか(2000)『入門証券論』, 有斐閣 釜江廣志編(1998)『入門証券市場論』, 有斐閣
成績評価の方法・基準等	中間試験(60%)と期末試験(40%)によって評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	担当教員の webclass に教材等の情報を掲載するので、週1度はチェックすること。





## シラバス参照

LiveCampus

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_全学モジュール I -16. 安全で安心できる社会**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



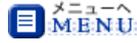
参照URL

学期	後期	曜日・校時	金1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586014502	科目番号	05860145
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (科学と技術の安全・安心)		
編集担当教員	林 秀千人		
授業担当教員名(科目責任者)	林 秀千人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 秀千人、高橋 和雄、田中 俊幸、久保 隆		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全]新棟5		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	hidechto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部流体エネルギー工学研究室		
担当教員TEL	095-819-2516		
担当教員オフィスアワー	月から金8時から8時30分		
授業のねらい	危険や不安に、どう考え、何をなすべきか、どのように対処するのかを学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養する		
授業方法(学習指導法)	基本的な事項について、抗議により学習をする。さらに、テーマをもとに、みんなで安全・安心について考えて意識を高める。		
授業到達目標	安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は、普段は見過ごし危険や事故に遭遇したときに意識するものですが、普段の取り組みが重要となります。本授業では、安全とは何か、安心とは何かについて、「災害・事故からの社会システムの安全・安心(科学と技術の安全・安心)」の観点から、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解を深める		
授業内容	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。  第1回 安全と安心の基本的な考え方について 第2回 災害とリスクマネジメントについて 第3回 安全文化について 社会では様々な事故が発生し、貴い命が失われることも多い。そのような事故が起こらないように安全を確保することが重要である。そのためには何が重要かを事故の事例とその原因を考えながら学習する。 第4回から第7回 自然災害と安全・安心 ・長崎の豪雨災害をはじめ、これまで発生した災害を教訓に日本各地で防災の都市づくりが進められている。国や自治体レベルで行われている施策を学び、さらに災害が起こったときの備えについて学習する。 第8回から第11回 化学物質の安全・安心 ・身のまわりのさまざまな物質に関して、安全を確保するための規制や法律等さまざまな考え方をもとに、安全への取り組みを紹介し、安全安心を考える。する。 第11回から第15回 電磁波がもたらす影響について ・身のまわりに生じている電磁波を中心に、目に見えないものが身体へ及ぼす影響について、安全をどうとらえ、安全安心へどのように取り組まれているかを紹介し、安全安心を考える。		
キーワード	科学技術の安全、システムの安全と安心、安全文化と安心		
教科書・教材・参考書	安全・安心工学入門(古今書院)、必要に応じて資料を配布する。		

成績評価の方法・基準等	数回のレポートにより評価
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



## シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_全学モジュール I-16. 安全で安心できる社会**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586013702	科目番号	05860137
授業科目名	●安全で安心できる社会 I (健康と医療の安全・安心)		
編集担当教員	中山 守雄		
授業担当教員名(科目責任者)	中山 守雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中山 守雄,小守 壽文,木住野 達也,ミテイ		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全]新棟5		
対象学生(クラス等)	医学部,歯学部,工学部,環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	morio@nagasaki-u.ac.jp(代表)		
担当教員研究室	衛生化学研究室(代表)		
担当教員TEL	095-819-2441		
担当教員オフィスアワー	12:00~13:00		
授業のねらい	健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。		
授業方法(学習指導法)	教科書を用いない講義科目なので、種々の資料や教材及び手段(液晶プロジェクターによる映像等)を使用する。また、医療に関わる多様な分野の教員とともに、多様な方法により、「健康と医療の安全・安心」を考える。		
授業到達目標	医療とは、人間の健康の維持、回復、促進などを目的とした諸活動を意味する。ここでは、健康の維持と医療との関わりを正しく理解し、説明できる		
授業内容	回	内容	
	1	生殖形成(小守)	
	2	DNAの複製、組換え、修復(小守)	
	3	遺伝要因による異常(小守)	
	4	骨格系の遺伝性疾患(小守)	
	5	遺伝子組換え技術(木住野)	
	6	遺伝子組換え技術と生物多様性(木住野)	
	7	遺伝子組換え技術と医療(木住野)	
	8	現代社会における子ども・女性・家族の危機① ライフイベントと起こりうる危機(江藤)	
	9	現代社会における子ども・女性・家族の危機② ドメスティックバイオレンスの発生と危機(江藤)	
	10	現代社会における子ども・女性・家族の危機③ 生命誕生と新しいメンバーを迎えた家族の危機(江藤)	
	11	現代社会における子ども・女性・家族の危機④ さまざまな葛藤と意思決定支援(江藤)	
	12	薬の副作用(サリドマイド)(中山)	
	13	薬害(中山)	

	14	麻薬と覚醒剤(中山)
	15	脳硬膜移植とプリオン病(中山)
	16	
キーワード	遺伝、遺伝子組換え、家族、女性、子ども、薬の副作用	
教科書・教材・参考書	特に指定しない	
成績評価の方法・基準等	積極的授業参加態度(40%)、レポート(40%)、小テスト(20%)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ	教養教育	
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.